

【ねがいはましては】

令和2年11月25日

KYOWA SCHOOL

第360号

「職人」

毎月送られてくる雑誌に「えっ」という内容のものに出会いました。その雑誌は時々私の中でヒットを打ちます。宮大工の方の記事でした。小川三夫さんという方です。

『宮大工』→寺社仏閣の建築や修復を専門にする職人さん。釘やボルトをを使わずに、木を組み込み建物を完成させる高度な技術を持った方たち。

1400年前からの技術をそのまま受け継ぐ方たちです。

小川さんは子どもの頃から勉強が大の嫌いで、成績は、55人中54番だったそうです。55番の生徒は学校へは来ていなかったそうで、実際はビリだったということになります。小川さんが高校卒業に近づく頃、周りの生徒たちは就職か大学進学かでざわつき始めます。さすがに小川さんも悩み始めたそうです。そんな時、修学旅行で劇的な出会いがありました。奈良の法隆寺を訪ねたとき、ガイドさんが発したことばでした。「この建物は約1300年前に建てられたもので・・・」その数字に『ガーン』と、頭をたたかれたそうです。木でできたものが何百年も残る。小川さんの思いは一途だったそうです。修学旅行から戻るとすぐ父親に「宮大工になりたい」と懇願、親の反対など尻目に、思い立ったらすぐ行動、再び奈良へととんぼ返り、制服姿にリュックの小川さんは奈良県庁を訪ねます。宮大工になるにはどうしたら良いのですかと・・・。すごい行動力です。

(中略) 小川さんはやがて弟子入りを果たします。宮大工へと修行をはじめます。といっても、師匠から何かを教えられたことは一度もなかったそうです。師匠と一緒に現場へ出向き、作業を手伝い、夜はひたすら道具の歯を磨く日々が続きました。

小川さんは言います。「師匠からは、新聞もテレビも仕事の本もいっさい見るなど言われてました。だから、刃物を研ぐしかやることがない。今思えば、その時間が今の俺をつくってくれたんだな。」

さらに続きます。「自分でいうのも何だが、素直だったからね。人間は素直が一番や。どんなことでも素直に受け止め、物事をじっと見ていれば必ず道がひらけてくる。」

ある日、鉋(かんな)を研ぐ小川さんの前に、師匠が自分で削った鉋くずをおいていきました。削り取られた鉋くずは信じられないほど薄く、向こうが透けて見えたそうです。「これくらい薄く削れる道具をつくれ、という意味だったんだ。その鉋くずを窓ガラスに貼り付けて、毎日懸命に刃を研いだよ・・・。」

やがて小川さんは、奈良県斑鳩(いかるが)町に「鶴工舎(いかるがこうしゃ)」を設立。その後、平成2年、栃木県に本社を開設し、現在に至っているそうです。

『不器用な人のほうが伸びる』

小川さんは言います。見習い大工を採用するときの基準は・・・「どちらかというと、成績がビリのほうからとるんだ。器用な奴より、不器用な奴のほうが伸びるからな。器用は器用におぼれる。不器用は不器用の一心でうまくなるんだ」私はこの一言に打たれました。

学校の成績の良い子は出世してお金持ちになり、おバカな子は貧乏暮らしが待っている。これは私の幼少のころからのいわば「ルール」でした。今でもちっとも変わっていません・・・?成績の良い子は、中学受験をして有名私立中学へ入り都内へ通学、やがて有名国公立大学へと進学、一部上場の企業や官僚へと旅だってゆく。ご近所さんや親類の間では、ちょっとした有名人。中学校へ入ると順位が出ます。ますます生徒間では見せかけの友情が大流行・・・。(とても皮肉っぽく書いています)

小川さんの生きざまは、そのまま今の青年たちに生きるヒントを掲げているように思いました。不器用な奴のほうが伸びる・・・。これは勉強が幼少時からできる子より、かえって学校へ通っている時代、不器用な生き方をしてきた子の方が確かな生き方をする。その時そのときを真剣に生ききっているかが大切・・・。

私もその感覚に賛成です。頭が良く、切れ味が良すぎる子は、とかく「オレがオレが、わたしがわたしが」と、ハナタカさんになりがちです。自分にうぬぼれがちになります。そのような子とは打って変わって、私は、ぼくは、生まれつきのお馬鹿さんです。だから、ゆっくりじっくり取り組みます。皆さん、お先へどーぞ!と、マイペースな子がたまにいます。また、そのような子にかぎって、人柄が一番!気が利くというか、気配りにたけている子が多いのです。

おバカさんは言うなれば、生き方が不器用なだけなのかもしれません。その反面、私が信じたいのは、人は人柄であわせが決まるような気がするということです。おバカさんで通ってきた人は、とびっきりの笑顔と、とびっきりの気配りを持ち合わせているような気がいたします。

そんなこと言ったら、この世の中、生きてなんか行けません。と、叱られるかもしれませんが、せめて、この小さな空間にだけは、その空気を漂わせながら生活していきたいと願っています。

今日も授業が終わりました。そっと、片付けをしてくれる子たちがいます。ありがとう。